

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
人を愛し自然を大切にできる心豊かな人間を育てる 協力し合う生徒 自立する生徒 創造していく生徒 支え合う生徒	・確かな学力を育てる ・豊かな心を育てる ・主体的に考え行動できる生徒を育てる ・地域や保護者と連携した教育活動を推進する

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 国語・数学とも県平均を下回っており、いずれもAよりBのほうが大きく下回っている。 国語では、話すこと・聞くことは県平均を上回っているが、書くこと・言語についての知識・理解・技能は県平均を下回っている。 数学Aでは、数と式の領域は県平均とほぼ同等であるが、図形・関数の領域では県平均を下回っている。 数学Bでは、図形の領域は県平均とほぼ同等だが、数と式、資料の活用の領域で苦手としている。 県 社会については県平均を上回っているが、他の教科、特に理科や数学は下回っている。 各教科とも基礎的な内容は県平均を上回っている。 国語は、漢字の読みは県平均を上回っているが、書きについては、やや課題がある。 社会は、知識・理解は定着しているが、社会的な思考や判断・表現の力が弱い。 数学は、小数の加減・四則計算等、中低学年の内容はよく理解できているが、小数の乗除・分数などの理解に課題がある。 数学は、数量や図形についての知識・理解が弱い。	【学習状況調査の結果】 1年生では達成感、充実感を感じる生徒や自尊心を持っている生徒が多いが、学年を追うごとに達成感を感じたり自己肯定感を持っている生徒が少なくなっている。 明確な将来の夢や目標を持っている生徒が多い。 地域の行事に参加したり、地域の人にあいさつをしたりなど地域にとけこんでいる生徒が多い。 本をよく読んでおり、図書館もよく利用している。 3時間以上テレビを見ている生徒が多い。 朝食を毎日食べている生徒は県平均と同等である。 寝る時間や起きる時間が決まっていない生徒が多い。 寝る時間、起きる時間は県平均に比べ、遅い傾向にある。 テレビやビデオ・DVD、テレビゲーム、インターネットなどに費やす時間がかなり多い。 平日・休日ともに、勉強時間は全国平均、県平均に比べ、少ない傾向にある。 普段の授業で、調べ学習をしたり、自分の考えを発表したり、話し合いをしたりする機会が少ないと感じている。

成果と課題	課題に対応した改善方法
各教科とも、基礎の学習はほぼ定着している。反面、活用型の学習は苦手としている。 宿題は、きちんとやっているが、予習や復習などの自主学習にける時間が少なく、家庭での学習時間が少ない。 読書が好きな生徒や、よく本を読む生徒も多く、図書館の利用状況もよいが、正答率の低い生徒は本を読んだり、図書館を利用したりする機会が少ない。さらに、本への興味・関心を持たせる取り組みが必要である。 実験や観察、資料の作成については関心も高く、意欲的に取り組んでいるが、これらを活用したり、考察したりすることが苦手なので、実験の結果や作成した資料からどう学習を深めるかが、課題である。	授業中はもちろん、業間もできるだけ生徒の中に入り、きめ細かい観察・支援を通して、自分の良さに気づかせ、自己肯定感を高めるようにする。 行事の中で様々な体験を通して、成就感や達成感を味わうことにより、自己肯定感を高めるようにする。 家庭学習の手引きを利用して、生徒自身への啓発を行い、同時に懇談会等で家庭への協力を求める。 授業の中で、調べ学習や話し合い活動、自分の考えを文章で表現をする場面を増やしていく。班などのグループ活動での意見交流や行事ごとに感想など「書く」習慣をつけていく。 単元別のまとめテストや確認テストを実施し、学習したことについての定着を図る。 少人数指導を充実させ、コースに応じた学習内容を工夫する。 放課後ミニ学習(ドリル学習)を充実させ、基礎学力の定着を図る。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
生徒へのアンケートの実施(2月) 調べ学習やまとめ学習は、授業での発表を行ったり、教室掲示を行う。(単元末、学期末、参観日等) 授業参観カードの活用(随時)及び校内研究授業の研究協議で検討(学期ごと) 中2に学力定着状況たしかめテストの実施(2学期) 行事の反省(随時) ミニ学習コンテストの実施(1, 2学期) 生徒による授業の振り返りカードの活用(随時)	普段の家庭学習が1時間以上の生徒の割合を70%以上にし、まったくしない生徒の割合を5%以下にする。 自分に良いところがあると感じる生徒の割合を県平均と同等にする。 図表や文章表現等、学習したことを工夫してまとめたりすることが個に応じてできるようにする。